

# エレクトロ

## エレクトロとは？

ヨーロッパの電子音楽とアメリカのファンクが融合した音楽ジャンルで、初期のエレクトロは「エレクトロ・ファンク」とも呼ばれ、その根底にはブラックミュージックの要素が多分に含まれています。

いくなれば「電子音で奏でるファンクテイストのダンスミュージック」ということになります。

そのため、現代における「広義でのエレクトロ」とは少し意味合いが異なることを覚えておきましょう。

Roland「TR-808」を用いたビートづくりがエレクトロの象徴であり、現代においてもリズムマシンを積極的に使ったサウンドこそがエレクトロの定番となっています。

## エレクトロの特徴

エレクトロの最大の特徴は「TR-808」を使った電子音ベースのビート。

とにかく「TR-808」をはじめとするリズムマシンを使って  
”機械的にビート奏でる”ことこそがエレクトロのキモとなります。

また、ファンク由来の16ビートである点も考慮しましょう。

- リズムマシンを用いた電子音サウンド
- 極めて機械的な16ビート
- 特徴的なカウベルの音色

## リズムマシンを用いた電子音サウンド

エレクトロをエレクトロたらしめている最大のポイントは、リズムマシンによる電子音的なサウンド。  
なかでも、TR-808を用いたビートメイクはエレクトロの定番テクニックです。

本来ならば実機を用いてビートを作るのが理想的ですが、ハウス・ミュージックにおけるTR-909同様、TR-808の音をサンプリングしたドラム音源を使う形でも良いかと思えます。

ステップシーケンサー使って打ち込むことで、よりエレクトロらしいアプローチが可能になるので、ステップシーケンサー付きの音源をお持ちの方はぜひチャレンジしてみてください。

## 極めて機械的な16ビート

初期のエレクトロは「エレクトロ・ファンク」とも呼ばれたほどに、ファンクの影響を受けています。したがって、そのリズムの主体は16ビートとなります。

一方で、グルーヴそのものは非常に機械的。ファンクらしいスウィング感やレイドバック感などはなく、あくまで機械で打込んだ正確なビートこそがエレクトロの特徴となります。

ウワモノでファンク感を出しつつ、ビートはあくまで機械的に打込みましょう。

## 特徴的なカウベルの音色

TR-808サウンドのなかでとりわけ特徴的なのが、そのカウベルの音色。

このサウンドこそが、  
エレクトロらしさを醸し出す一つのポイントだったりもします。

往年のエレクトロサウンドを再現したい場合は、  
カウベルの音色を積極的に入れてみると良いでしょう。  
もちろん、必ずしも必要というわけではありません。

# エレクトロ・ビート

パターン①



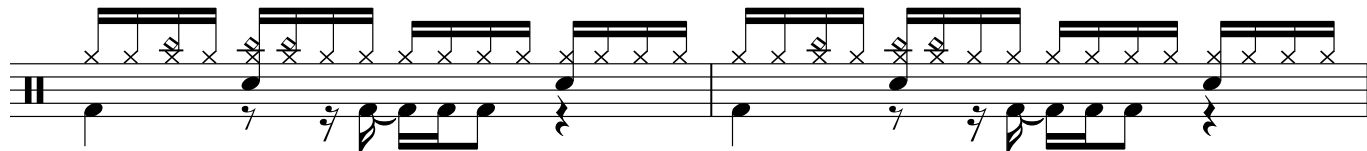
Musical notation for Pattern 1, featuring a steady eighth-note rhythm on the upper staff and a bass line with eighth notes and rests on the lower staff.

パターン②



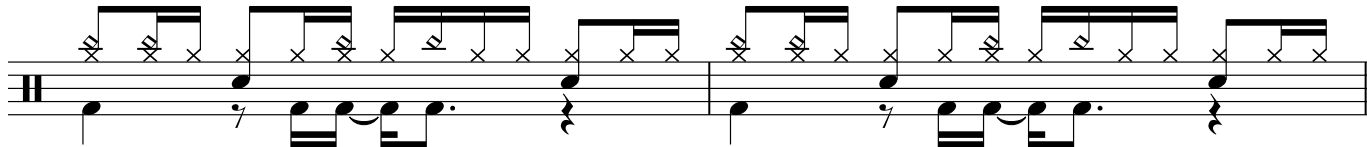
Musical notation for Pattern 2, featuring a steady eighth-note rhythm on the upper staff and a bass line with eighth notes and rests on the lower staff.

パターン③



Musical notation for Pattern 3, featuring a steady eighth-note rhythm on the upper staff and a bass line with eighth notes and rests on the lower staff.

パターン④



Musical notation for Pattern 4, featuring a steady eighth-note rhythm on the upper staff and a bass line with eighth notes and rests on the lower staff.

## エレクトロの音色選び

エレクトロにおける王道の音色は、やはりTR-808系サウンドですが、ドラムシンセ系の音色ならば何を使ってもOKです。

最も楽曲にマッチした

ドラムシンセ系サウンドを選んであげると良いでしょう。

- 基本はTR-808の音色
- ドラムシンセ系音源ならどれでもOK



# エレクトロ打込みのコツ

## ■ エレクトロのベロシティ

エレクトロのビートは、機械的なサウンドこそがポイントになります。そのため、キック、スネア、ハイハットのベロシティはあえて一定に保つ方がそれらしくなります。ただし、リズムによっては全て一定だとあまりにも平坦になりすぎる場合には、16ビートのベロシティ設定方法に倣って抑揚をつけると良いでしょう。

## ■ エレクトロのクオンタイズ

エレクトロのクオンタイズにおいても、機械的な演奏を心がけましょう。そのため、全てのノートがグリッドジャスト！スウィングもなし！という具合に、かなり割り切ったクオンタイズ設定の方がそれらしくなります。